

## 令和 6 年度 学校自己評価報告書

### I 今年度の重点項目への取組

考察等	3つの重点項目「互いを尊重し、認め合う心」「自ら進んで学ぼうとする態度」「課題を探究。判断して行動できる力や自分の思い描く未来の実現」については、教員間で概ね共通理解を図り、取り組むことができています。昨年度の課題であった駒中 Principle については、各組織でこの理念を意識した指導を進めることができた。
改善策	引き続き、教育重点目標を意識した取組、指導を行う。

### II 地域とともに子どもを育てる教育

考察等	ホームページ、学年だより等の広報活動や情報提供では、概ね肯定的な回答が多かった。また、保護者地域連携についても肯定的な回答がほとんどであった。
改善策	引き続きホームページの充実を図るとともに、すぐるを活用した保護者への発信を積極的に行っていく。

### III 未来を担う子どもを育てる教育

#### 1 教育課程・教育目標

考察等	教育課程の編成管理、月行事計画、教務事務への取組は概ね肯定的である。令和 7 年度より始まった土曜授業廃止に伴う、教育課程編成への教職員の共通理解についてはやや課題がみられる。
改善策	年度初めに教育課程届の確認を行い、新たな教育課程の趣旨を共通理解し、協力して教育活動を進める体制を整える。

#### 2 生活指導

考察等	学校生活のきまりの共通理解等、概ね肯定的な評価であった。
改善策	年度初めに生活指導スタンダードの確認し、全員が共通して指導できるように努める。

#### 3 学習指導

考察等	概ね肯定的であるが、図書館の活用に課題がみられる。
改善策	学校図書館の活用については、引き続き、学校図書館と図書室司書による活用研修を行い、NIE など授業における活用について考える機会をもつ。

#### 4 道徳・特別活動・総合的な学習の時間

考察等	特別の教科「道徳」・特別活動の計画、実施については概ね肯定的な回答が得られている。総合的な学習の時間は、問題解決する力や探究活動への主体的・協働的な取組に対しては、昨年度と比較して改善しているととらえている教員が多い。
改善策	特別の教科「道徳」・特別活動は、引き続き学年を中心に取組を充実させていく。総合的な学習の時間については、生徒が主体的に取り組めるようさらに工夫していく。

#### 5 学校行事

考察等	どの活動も充実しているが、土曜授業廃止に伴い、精選、スリム化を図る必要がある。
改善策	合唱コンクールについては、コンクールを中心とし、その他の発表を校内の教育活動に関する発表のみにした。合唱コンクールの枠に収まらなかった発表は、可能な範囲で生徒会主催の行事等で実施する。

#### 6 健康体力・特色ある教育・世田谷 9 年教育

考察等	世田谷 9 年教育については、さらに連携をすすめる必要があると考える。
改善策	キャリア、外部人材の活用を軸に、小中間の総合的な学習の時間について共通理解し、連携できそうな活動は連携を進める。体力向上や健康教育に関するプログラムは、引き続き取り組んでいく。

#### 7 キャリア教育・進路指導

考察等	キャリア教育・進路指導ともに、計画的な取組に対して肯定的な評価となった。
改善策	引き続き、全体計画をもとに計画的に進める。キャリア教育については、職業講話、職場体験、上級学校学習が定着した。活動を通して生徒自身の生き方を深く考えられるようにさらに充実を図っていく。キャリア教育の取組については、各学年の学年だより等を通して発信していく。

## 8 特別支援教育・教育相談

考察等	特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心に、すまいるルーム、聞こえの教室、カウンセラー含めた教職員で特別支援教育のねらいや共通理解が図られている。やすらぎルームが目的に合った運用となっている。
改善策	教育相談については、カウンセラーとの連携を密にするとともに、特別支援コーディネーターを中心に、小さな課題も見逃さない教育相談体制を整える。やすらぎルームや取り出し、すまいる通室など配慮の必要な生徒に対する個別の支援の充実を重点的に行う。

## 9 N I E ・ E S D

考察等	N I Eについては、2学年においては毎週取り組むことができたが、他の学年については十分とは言えない。ユネスコスクールとしてのE S Dの取組への理解も十分とは言えない。
改善策	N I Eについては、総合的な学習の時間や授業で新聞を活用するなど、充実を図る。ユネスコスクールについては、全教員に研修を実施し、総合的な学習の時間を中心にE S Dを意識して教育活動を実施していく。

## 10 部活動

考察等	部活動の組織的な実施についてもやや課題があると感じている教員が多い。
改善策	外部指導員の活用を進めるとともに、複数顧問を徹底する。活動時間の短縮により、全員が無理なく取り組めるようにする。

## IV 信頼と誇りのもてる学校づくり

### 1 学校運営・学校経営・学校評価

考察等	I C T活用についてについての改善が進んでいる。教員向け資料、保護者向け資料ともに、ペーパーレス化が進んだ。
改善策	引き続き組織的かつ計画的に学校運営を進めていく。

### 2 教職員・研修

考察等	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革に向けて、I C Tを活用した採点のシステムが導入されるなど、具体的な取組が進んだが、業務内容が多く遅くまで職員室に残る教員もいる。</li> <li>校内研究・研修については、肯定的な回答多く、充実していると感じている。昨年度は、単元内自由進度学習や生成A Iを活用した取組など、先進的な研修を行うことができた。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革について、定時退勤日はこれまで同様設定し、個人の意識の変容を促す。</li> <li>教員の課題にあった研修を進めていく。</li> </ul>

### 3 保健管理・安全管理

考察等	保健管理については計画的に進められており、アレルギー、熱中症対等研修は充実している。安全管理については、マイタイムラインを全校で実施したが、一層の充実が望まれる。
改善策	保健管理については、引き続き充実を図る。防災の取組は、小中連携においても実施する。また、マイタイムラインについては、総合的な学習の時間に位置付け、内容の充実を図っていく。

## V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備については現状の中で、有効活用進めている。予算の活用については肯定的な回答が多い。また、私費会計については、事務職員と分担して行うことができた。</li> <li>t e a m sのチャネルによる情報管理が進んでいる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、私費会計については、複数体制で進める。</li> <li>校務の生成A I活用についての可能性を探る。</li> </ul>